

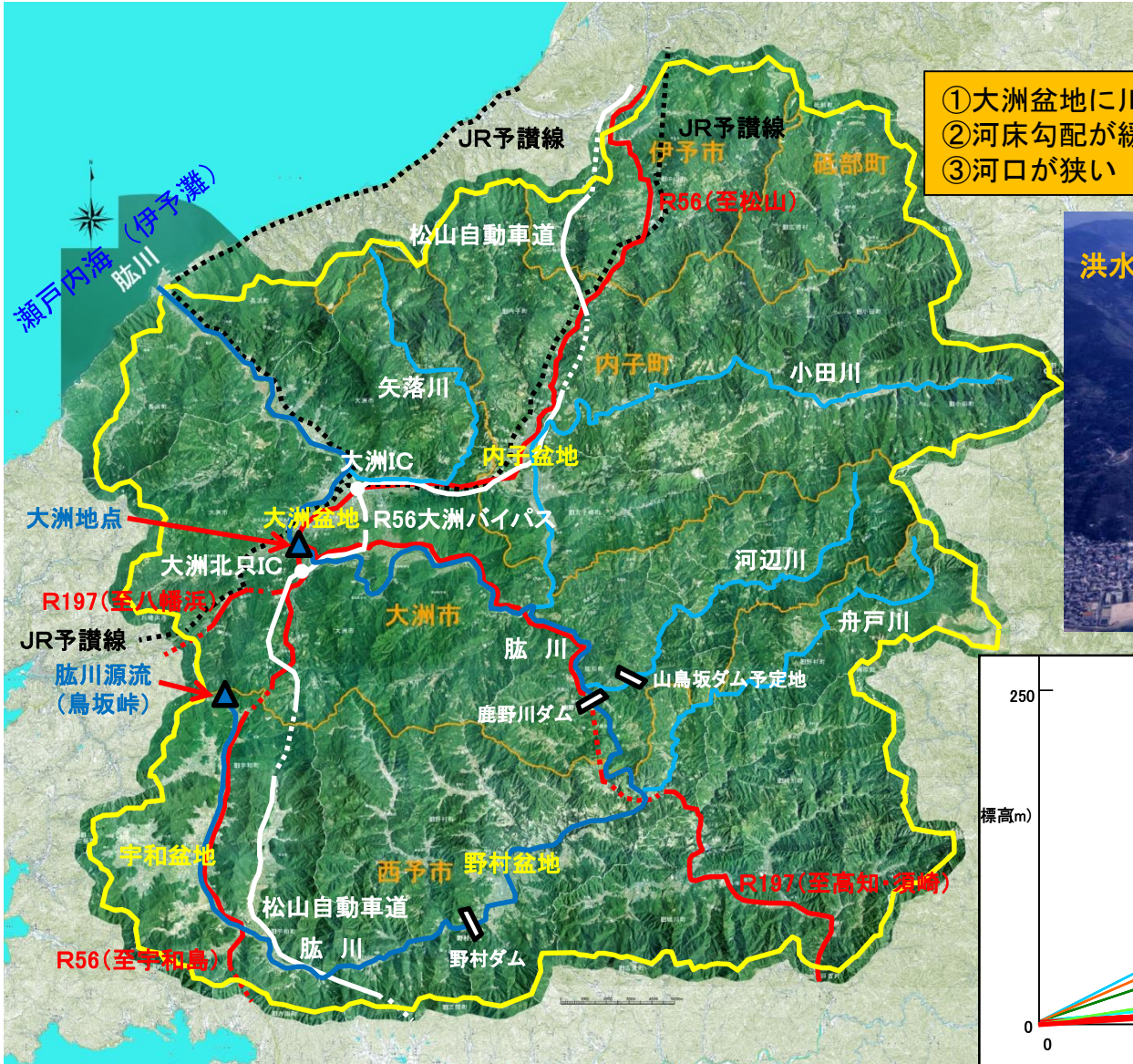
# 平成30年7月豪雨災害の状況と課題

意見発表

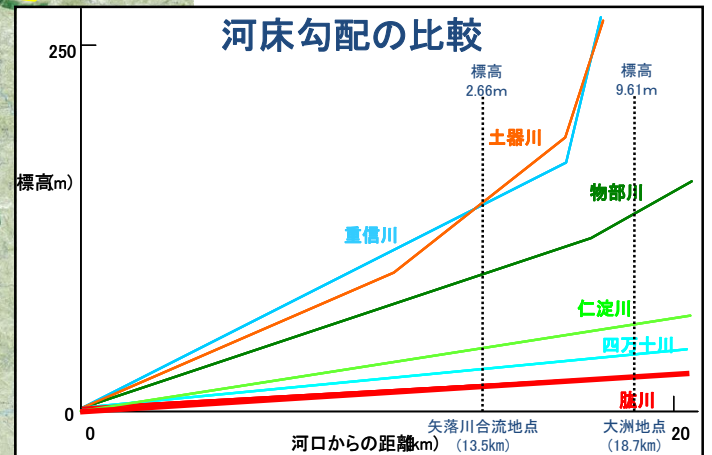


平成30年11月 愛媛県大洲市

# 肱川流域の地形的特性



- ①大洲盆地に川が集中 → 洪水が集中しやすい
- ②河床勾配が緩やか → 洪水が流れにくい
- ③河口が狭い → 洪水が吐けにくい



# 平成30年7月豪雨災害 浸水被害 (H30.10.25現在)



浸水面積	約1,400ha			
住家被害	全壊	391棟	大規模半壊	524棟
	半壊	1,135棟	一部破損	16棟
	床上浸水	20棟	床下浸水	780棟
非住家	損壊	7棟	浸水	1,059棟
	(被災事業所 959事業所)			

**※4,000棟を超える浸水・損壊被害が発生**

水道被災 上水道 5水源地 簡易水道 6水源地  
約9,760世帯、22,000人のエリアが断水

# 東大洲地域の浸水状況 (H30.7.7)



# 西大洲地域の浸水状況 (H30.7.7)



# 肱川の状況 (H30.7.7)

平常時の如法寺河原



平常時の肱川橋(仮橋)



# 大川地区の大成橋が流出



流出前的大成橋

# 肱川地域の被害状況





# 市道の被害状況



大洲上須戒線



環境センター線



長浜戒川線



北只黒木線

# ご支援いただいた皆様へ感謝



# 今後の課題

## 【ハード対策】

### ○ 肱川水系河川整備計画の早期実現(事業の迅速な実施)

堤防整備、鹿野川ダム改造事業の早期完成と効果的な運用、山鳥坂ダム建設事業の早期完成

### ○ 恒久的・抜本的な対策を講じる新たな河川整備計画の策定

河川整備区域の見直しや計画規模の拡大、河床の適正管理等による河川断面の確保、治水容量の増大  
ダムにおける洪水時の効果的な運用方法の構築

### ○ 事前防災の推進

災害を未然に防ぐための社会基盤整備

## 【ソフト対策】

### ○ 技術者の育成と確保対策

平成の市町村合併により、自治体の職員不足、特に建築・土木技術者の確保が困難  
建設業者も減少するなか、技術者の育成と地方における確保対策

### ○ 被災者支援の拡充

被災者の将来への不安(住宅・子育て・仕事・健康など)を解消する支援の充実  
働く場所の再開と経済の循環に向けた事業主(個人・企業)への支援拡充と制度化

### ○ 防災情報共有と伝達

的確な避難情報提供が行えるよう、国、県、市町村の一体的な情報共有体制の構築  
より早く確実な避難情報等の伝達と、その伝達状況を確認するシステム

### ○ 多様な情報伝達手段の確保と意識啓発

住民が直感的に理解しやすい、多様な防災情報提供の確保  
命を守るための避難行動を起こす意識の啓発

### ○ 自主防災組織の育成

避難所の運営や避難支援など自主防災組織が担う役割の明確化と育成  
防災士などリーダーの育成や防災力強化のための研修の充実

# 肱川の風景(文化財・観光施設は大丈夫です)



鵜飼い



カヌーツーリング



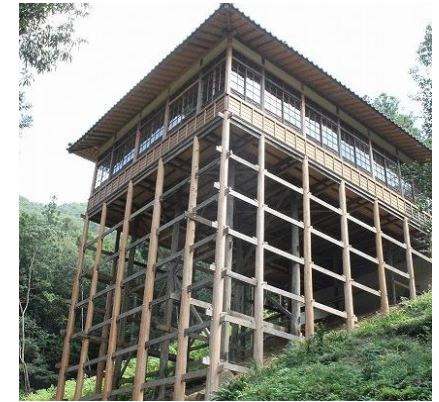
日本三大芋煮「大洲のいもたき」



大洲城と伊予灘ものがたり



臥龍山荘



少彦名神社参籠殿



如法寺仏殿



肱川あらし



長浜大橋